

明石工業高等専門学校				電気情報工学科								開講年度		平成27年度 (2015年度)													
学科到達目標																											
科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分				
						1年				2年				3年				4年						5年			
						前		後		前		後		前		後		前		後				前		後	
						1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q			1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
一般	必修	国語Ⅲ	0001	履修単位	1										2								宮川 真弥				
一般	必修	日本史	0002	履修単位	2									2		2								小野塚 航一			
一般	必修	数学Ⅲ A	0003	学修単位	4									2		2								松宮 篤			
一般	必修	数学Ⅲ B	0004	履修単位	2									2		2								長尾 秀人			
一般	必修	サイエンスⅢ A	0005	履修単位	2									2		2								原 俊雄			
一般	必修	サイエンスⅢ B	0006	履修単位	2									2		2								倉光 利江			
一般	必修	保健体育Ⅲ	0007	履修単位	2									2		2								石田 まさみ 前田 忠紀 小林 優希			
一般	必修	英語Ⅲ	0008	履修単位	2									2		2								穂本 浩美			
一般	必修	英会話Ⅰ	0009	履修単位	2									2		2								ハーバート ジョン			
一般	必修	C o + w o r kⅡ A	0010	履修単位	1									2										全教員			
一般	必修	C o + w o r kⅡ B	0011	履修単位	1										2									全教員			
一般	選択	海外研修Ⅰ	0012	履修単位	1									1		1								E 全			
専門	必修	電気磁気学Ⅰ	0013	学修単位	2										2									梶村 好宏			
専門	必修	電子工学	0014	学修単位	2									2										砂原 米彦			
専門	必修	回路論	0015	履修単位	2									2		2								周山 大慶 砂原 米彦			
専門	必修	電気電子工学概論	0016	学修単位	2									2										廣田 敦志			
専門	必修	情報工学概論	0017	学修単位	2										2									佐村 敏治			
専門	必修	デジタル電子回路	0018	履修単位	2									2		2								礪川 悌次郎 松井 伸之			
専門	必修	電気情報工学実験Ⅱ	0019	履修単位	4									4		4								大向 雅人 周山 大慶 細川 篤 廣田 敦志 砂原 米彦			

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	国語Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0001		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科		対象学年		3		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	中島国彦ほか「精選現代文B」（明治書院）久保田淳ほか「高等学校古典B」（明治書院）稲賀敬二ほか「新訂総合便覧」（第一学習社）						
担当教員	宮川 真弥						
到達目標							
1) 論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要約することができる 2) 文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取ることができる 3) 社会生活の中で用いられている漢字や語句について正確に理解し、活用することができる							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえ、要約した上で、その論拠の妥当性について議論することができる		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開をとらえ、おおむね要約することができる		論理的な文章（論説や評論）の構成や展開を的確にとらえることができない	
評価項目2		文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、その特質を理解することができる		文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を表現に即して適切に読み取ることができる		文学的な文章（小説や詩）に描かれた人物やものの見方を十分に読み取ることができない	
評価項目3		社会生活の中で用いられている漢字や語句について正確に理解し、活用することができる		社会生活の中で用いられている漢字や語句についておおむね正確に理解し、活用することができる		辞書など補助的な機器がなければ、社会生活の中で用いられている漢字や語句について正確に理解し、活用することができない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (E)							
教育方法等							
概要		近現代の評論文や小説、古典文学など、様々な文章を主体的に読むことを通して、日本語及び日本文化の基本的な知識を習得する。豊かな感性と論理的な思考力を身につけ、的確な読解力と表現力を獲得する。					
授業の進め方・方法		講義形式を基本とするが、随時課題を課すことがある					
注意点		自主的に予習を行い、授業には集中して意欲的に取り組むこと 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課					
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション「国語について」、「小景異情」（室生犀星）の読解		授業の進行・準備物について理解することができる		
		2週	「〈読み〉の楽しみ」（丸山圭三郎）の読解		テキストに用いられている語句・表現を適切に理解することができる		
		3週	「〈読み〉の楽しみ」（丸山圭三郎）の読解		テキストの構成をとらえ、内容を適切に理解することができる		
		4週	「〈読み〉の楽しみ」（丸山圭三郎）の読解とまとめ		これまでの記述と合わせて、テキスト全体の主張を適切に理解することができる		
		5週	『和泉式部日記』について・「夢よりもはかなき世の中を」（和泉式部日記）の読解		筆者およびテキストの歴史的背景を理解し、テキストを読解することができる		
		6週	「夢よりもはかなき世の中を」（和泉式部日記）の読解		助動詞や尊敬表現など文法事項に注意して、テキストを読解することができる		
		7週	「夢よりもはかなき世の中を」（和泉式部日記）の読解とまとめ		助動詞や尊敬表現など文法事項に注意して、テキストを読解することができる		
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	中間試験の解説、「兵隊宿」（竹西寛子）の読解		時代背景や登場人物を正確にとらえ、小説の世界を理解することができる		
		10週	「兵隊宿」（竹西寛子）の読解		表現・構成に注意して小説の展開を理解することができる		
		11週	「兵隊宿」（竹西寛子）の読解		表現・構成に注意して小説の展開を理解することができる		
		12週	「兵隊宿」（竹西寛子）の読解とまとめ		表現・構成に注意して小説の展開を理解することができる		
		13週	「王昭君」（西京雑記）の読解		否定・使役といった句形に注意して内容を適切に理解することができる		
		14週	「四面楚歌」（史記）の読解		時代背景を正確にとらえ、疑問の句形に注意して内容を適切に理解することができる		
		15週	「四面楚歌」（史記）の読解とまとめ		内容を適切に理解し、現代における四字熟語の利用について意見を述べるすることができる		
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	10	0	10	100

基礎的能力	80	0	0	10	0	10	100
專門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	サイエンスⅢ A	
科目基礎情報							
科目番号	0005		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	前期：「総合物理1, 2」数研出版　「リードα 物理基礎・物理」数研出版　後期：中山正敏「基礎力学」裳華房						
担当教員	原 俊雄						
到達目標							
(1) 交流回路と電磁波に関する計算問題を解くことができる。 (2) 気体を対象とした熱力学に関する計算問題を解くことができる。 (3) 原子・原子核・素粒子に関する初等的な問題を解くことができる。 (4) 微積分による取り扱いを含む、力学の基本法則に基づいた力と運動の取り扱いができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	交流回路と電磁波に関する応用的な計算問題を解くことができる。		交流回路と電磁波に関する基本的な計算問題を解くことができる。		交流回路と電磁波に関する計算問題を解くことができない。		
評価項目2	気体を対象とした熱力学に関する応用的な計算問題を解くことができる。		気体を対象とした熱力学に関する基本的な計算問題を解くことができる。		気体を対象とした熱力学に関する計算問題を解くことができない。		
評価項目3	原子・原子核・素粒子に関する初等的な計算を用いる問題を解くことができる。		原子・原子核・素粒子に関する初等的な知識に関する問題を解くことができる。		原子・原子核・素粒子に関する初等的な問題を解くことができない。		
評価項目4	力学の基本法則に基づいた力と運動の的確な取り扱いができる。		力学の基本法則に基づいた力と運動の取り扱いができる。		力学の基本法則に基づいた力と運動の取り扱いができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (G)							
教育方法等							
概要	前期には主として熱と気体に関する分野と原子に関する分野を学習する。						
授業の進め方・方法	授業は講義形式で行い、その中で演習課題や小テストも課す。						
注意点	毎回の授業に対して予習・復習および問題演習を行うこと。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	交流と抵抗・コイル・コンデンサー(p209-p216)		交流と抵抗・コイル・コンデンサーに関する計算ができる。		
		2週	交流回路のインピーダンス、LC電気振動（共振）と電磁波。(p217-p228)		インピーダンス、電気振動、電磁波に関する計算ができる。		
		3週	比熱(p182-p191)		比熱に関する計算ができる。		
		4週	ボイル・シャルルの法則と状態方程式(p192-p197)		理想気体の状態方程式に関する計算ができる。		
		5週	気体分子運動論と内部エネルギー(p198-p204)		気体分子運動論と気体の内部エネルギーに関する計算ができる。		
		6週	熱力学第一法則と4つの気体状態変化(p205-p209)		熱力学の第一法則と4つの状態変化に関する計算ができる。		
		7週	2つのモル比熱と熱効率(p210-p217)		モル比熱と熱効率に関する計算ができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	トムソンの実験とミリカンの実験(p242-p249)		トムソンの実験とミリカン実験について理解し、関連する計算ができる。		
		10週	光電効果と仕事関数（p250-p255）		光電効果と仕事関数について理解し、関連する計算ができる。		
		11週	X線と電子線(p256-p264)		X線と電子線について理解し、関連する計算ができる。		
		12週	水素の原子構造とボーアの理論(p266-p272)		水素の原子構造とボーアの理論について理解し、関連する計算ができる。		
		13週	原子核と放射能(p276-284)		原子核と放射能について理解し、関連する計算ができる。		
		14週	核分裂と核融合(p285-p292)		核分裂と核融合について理解し、関連する計算ができる。		
		15週	クォークと4つの力(p293-p296)		クォークと4つの力について理解し、関連する計算ができる。		
		16週	期末試験				
後期	3rdQ	1週	位置・速度・加速度		質点の運動を微積分に基づいて記述することができる。		
		2週	位置・速度・加速度		質点の運動を微積分に基づいて記述することができる。		
		3週	運動の法則		運動の法則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。		
		4週	運動の法則		運動の法則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。		
		5週	仕事と力学的エネルギー		仕事と力学的エネルギーおよびその保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。		

		6週	仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーおよびその保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		7週	仕事と力学的エネルギー	仕事と力学的エネルギーおよびその保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	力積と運動量	力積と運動量の関係や運動量保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		10週	力積と運動量	力積と運動量の関係や運動量保存則について説明でき、それらを具体的な問題に適用できる。
		11週	振動	振動を取り扱うための代表的な手法を理解し、具体的な問題に適用できる。
		12週	振動	振動を取り扱うための代表的な手法を理解し、具体的な問題に適用できる。
		13週	振動	振動を取り扱うための代表的な手法を理解し、具体的な問題に適用できる。
		14週	流体の力学	本科目の第3四半期に学習した内容を流体に適用できる。
		15週	流体の力学	本科目の第3四半期に学習した内容を流体に適用できる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	自然科学	物理	力学	速度と加速度の概念を説明できる。	3	
				直線および平面運動において、2物体の相対速度、合成速度を求めることができる。	3	
				等加速度直線運動の公式を用いて、物体の座標、時間、速度に関する計算ができる。	3	
				平面内を移動する質点の運動を位置ベクトルの変化として扱うことができる。	3	
				物体の変位、速度、加速度を微分・積分を用いて相互に計算することができる。	3	

評価割合

	試験	演習課題・小テスト	合計
総合評価割合	60	40	100
基礎的能力	60	40	100
専門的能力	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	サイエンスⅢ B	
科目基礎情報							
科目番号	0006		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		2		
教科書/教材	「新編 化学」(東京書籍)、「センサー 化学」(啓林館)						
担当教員	倉光 利江						
到達目標							
1. 物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。 2. 化学反応に関する基本事項について説明や計算ができる。 3. 無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。 4. 有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	物質の状態に関する基本事項についての確な説明や正確な計算が十分にできる。		物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。		物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができない。		
評価項目2	化学反応に関する基本事項についての確な説明や正確な計算が十分にできる。		化学反応に関する基本事項について説明や計算ができる。		化学反応に関する基本事項について説明や計算ができない。		
評価項目3	無機物質に関する基本事項についての確な説明や正確な計算が十分にできる。		無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。		無機物質に関する基本事項について説明や計算ができない。		
評価項目4	有機物質に関する基本事項についての確な説明や正確な計算が十分にできる。		有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。		有機物質に関する基本事項について説明や計算ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (G)							
教育方法等							
概要	化学物質に関する基礎知識を習得する。 化学の基礎理論を理解することによって、科学的思考力を養う。						
授業の進め方・方法	平素は講義形式で授業を行い、一部に実験を行う週も設ける。						
注意点	日常生活を科学的に考察することによって、「化学」が身近な存在であることを認識して欲しい。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	物質の状態 1		物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		2週	物質の状態 2		物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		3週	物質の状態 3		物質の状態に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		4週	化学反応とエネルギー 1		化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		5週	化学反応とエネルギー 2		化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		6週	化学反応とエネルギー 3		化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		7週	化学反応とエネルギー 4		化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	物質の状態 及び 化学反応とエネルギー まとめ		物質の状態や化学反応とエネルギーに関する基本事項について説明や計算ができる。		
		10週	反応速度と平衡 1		反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		11週	反応速度と平衡 2		反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		12週	反応速度と平衡 3		反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		13週	反応速度と平衡 4		反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		14週	反応速度と平衡 5		反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		15週	反応速度と平衡 6		反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		16週	期末試験				
後期	3rdQ	1週	反応速度と平衡 まとめ		反応速度と平衡に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		2週	無機物質 1		無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。		
		3週	無機物質 2		無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。		

		4週	無機物質 3	無機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		5週	無機物質と有機物質 1	無機物質と有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		6週	無機物質と有機物質 2	無機物質と有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		7週	無機物質と有機物質 3	無機物質と有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	有機物質 1	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		10週	有機物質 2	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		11週	有機物質 3	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		12週	有機物質 4	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		13週	有機物質 5	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		14週	有機物質 6	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		15週	有機物質 7	有機物質に関する基本事項について説明や計算ができる。
		16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	実験・レポート・小テスト・課題等	受講状況	合計	
総合評価割合	40	20	40	100	
基礎的能力	40	20	40	100	
専門的能力	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	保健体育Ⅲ	
科目基礎情報							
科目番号	0007			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	実技			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	新版保健体育概論(近畿地区高専体育研究会編:晃洋書房)						
担当教員	石田 まさみ,前田 忠紀,小林 優希						
到達目標							
・授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。また、ある程度の自己管理能力がある。 ・それぞれの種目のルールやゲームの進め方を理解し、参加することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
出席・授業態度	主体的に授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。自己管理能力が高い。		授業に参加して自身の健康増進、体力向上に努める。ある程度自己管理能力がある。		授業への参加や自身の健康増進、体力向上に消極的。自己管理能力が高くない。		授業に参加しない。自身の健康増進、体力向上に努めない。自己管理能力が低い。
実技	各種目の練習、ゲームに積極的に参加し、競技力が非常に高い。また、ゲーム等に大きな影響力を持つ。		各種目の練習、ゲームに積極的に参加することができる。また、その技術を身に付けている。		各種目の練習、ゲームに参加することができる。		各種目の練習、ゲームに参加しない。
リーダーシップ	リーダーの役割をよく理解し、チームワーク力を高めることができる。		リーダーの役割を理解して担う、もしくは引き受けることができる。		リーダーの役割を理解しているが、その役割を担うことはない。		リーダーの役割を理解していない。またその役割を担うこともない。
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (B)							
教育方法等							
概要	基礎体力の向上を図りつつ、様々なスポーツに適応できる能力を高める。また、身体活動を通して豊かな社会性を養い、ルールやマナー、安全に対する態度や知識も身につける。						
授業の進め方・方法	ゲームや練習に積極的に参加し、その種目の楽しさを各々に発見してもらいたい。まずはルールやゲームの進め方などを覚え、基本技術の習得に努める。さらにゲームやゲーム形式練習を通して、より高度な技術を身に付け、チームワーク力も高めてほしい。受講学生と担当教員が協力して安全で雰囲気の良い授業作りをしたいと考えている。						
注意点	・学校指定のトレーニングウェア、運動靴を着用すること。 ・アクセサリ類、時計、その他不必要な物の着用や持ち込みを禁止する。 ・遅刻は開始20分までとする。20分以後の参加は認めるが欠席扱いとする。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、男子:バレーボール(1) / 女子:バレーボール(1)			この授業の目的、目標を理解する。ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。	
		2週	男子:バレーボール(2) / 女子:バレーボール(2)			ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。	
		3週	男子:バレーボール(3) / 女子:バレーボール(3)			ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。	
		4週	男子:バレーボール(4) / 女子:バレーボール(4)			ゲームに参加することができる。	
		5週	男子:バレーボール(5) / 女子:バレーボール(5)			ゲームに参加することができる。	
		6週	男子:バレーボール(6) / 女子:バレーボール(6)			ゲームに参加することができる。	
		7週	男子:バレーボール(7) / 女子:バレーボール(7)			ゲームに参加することができる。	
		8週	中間試験実施せず				
	2ndQ	9週	男子:卓球(1) / 女子:卓球(1)			基本技術の習得に努める。	
		10週	男子:卓球(2) / 女子:卓球(2)			基本技術の習得に努める。	
		11週	男子:卓球(3) / 女子:卓球(3)			基本技術の習得に努める。	
		12週	男子:卓球(4) / 女子:卓球(4)			ゲームに参加することができる。	
		13週	男子:卓球(5) / 女子:卓球(5)			ゲームに参加することができる。	
		14週	男子:卓球(6) / 女子:卓球(6)			ゲームに参加することができる。	
		15週	男子:卓球(7) / 女子:卓球(7)			ゲームに参加することができる。	
		16週	期末試験実施せず				
後期	3rdQ	1週	男子:テニス (1) / 女子:バドミントン (1)			ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。	
		2週	男子:テニス (2) / 女子:バドミントン (2)			ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。	
		3週	男子:テニス (3) / 女子:バドミントン (3)			ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。	
		4週	男子:テニス (4) / 女子:バドミントン (4)			ゲームに参加することができる。	
		5週	男子:テニス (5) / 女子:バドミントン (5)			ゲームに参加することができる。	
		6週	男子:テニス (6) / 女子:バドミントン (6)			ゲームに参加することができる。	
		7週	男子:テニス (7) / 女子:バドミントン (7)			ゲームに参加することができる。	
		8週	中間試験実施せず				
	4thQ	9週	男子:バスケットボール (1) / 女子:バスケットボール (1)			ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。	

	10週	男子:バスケットボール (2) / 女子:バスケットボール (2)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。
	11週	男子:バスケットボール (3) / 女子:バスケットボール (3)	ルールやゲームの進め方を覚える。基本技術の習得に努める。
	12週	男子:バスケットボール (4) / 女子:バスケットボール (4)	ゲームに参加することができる。
	13週	男子:バスケットボール (5) / 女子:バスケットボール (5)	ゲームに参加することができる。
	14週	男子:バスケットボール (6) / 女子:バスケットボール (6)	ゲームに参加することができる。
	15週	男子:バスケットボール (7) / 女子:バスケットボール (7)	ゲームに参加することができる。
	16週	期末試験実施せず	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	出席・授業態度	実技	リーダーシップ	合計
総合評価割合	75	15	10	100
基礎的能力	75	0	0	75
専門的能力	0	15	0	15
分野横断的能力	0	0	10	10

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	英語Ⅲ
科目基礎情報						
科目番号	0008		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	吉塚弘：『Best Practice for the TOEIC Listening and Reading Test』、Dale Fuller：『Advantage』萩野治雄：『データベース4500』（2年次より継続）					
担当教員	穂本 浩美					
到達目標						
・相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。 ・日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。 ・社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1		相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に応用して役立てることができる。	相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができる。	相手と英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や異文化を理解しようとする姿勢を身に付け、実際の場面での英語の使用に役立てることができない。		
評価項目2		日常生活や自分の身近なことについて、的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。	日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できる。	日常生活や自分の身近なことについて、ある程度の的確さ、流暢さ、即応性をもって内容を聴解、読解、伝達できない。		
評価項目3		社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、意見交換ができる。	社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができる。	社会性のある話題や自分の専門に関する基本的な情報や考えについて、内容の聴解、読解、伝達に加え、簡単な意見交換ができない。		
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E)						
教育方法等						
概要	リスニング、文法、語彙、リーディングなどの個別スキルのレベルアップに加え、TOEICで高得点が狙えるよう英語力の向上を目指す。					
授業の進め方・方法	単語の習得を確認する小テストの後、教科書を使った講義、グループもしくはペアによる英語の口頭練習を行う。					
注意点	遅刻は授業開始後10分まで。10分を超えた場合は特別な事情を除き欠席扱い。授業中の居眠り、他の教科の勉強、漫画や雑誌を読むこと、忘れ物、予習の不備、携帯電話の使用なども欠席扱いとなる。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	授業概要説明 TOEICテスト概要説明		授業進行について理解し1年間を通して実行できる。	
		2週	Unit 1 Listening Section および英語による口頭練習、クイズ1		日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		3週	Unit 1 Reading Section および英語による口頭練習、クイズ2		平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		4週	映像で学ぶ英語圏文化1 クイズ3		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	
		5週	Unit 2 Listening Section および英語による口頭練習、クイズ4		日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		6週	Unit 2 Reading Section および英語による口頭練習、クイズ5		平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	
		7週	中間試験Q&A		これまでのふりかえることで弱点を見つけ、それを克服することで定期試験に備えることができる。	
		8週	中間試験実施		これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。	
	2ndQ	9週	中間試験返却 映像で学ぶ英語圏文化		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	
		10週	Unit 5 Listening Section および英語による口頭練習、クイズ6		日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。	

後期		11週	Unit 5 Reading Section および英語による口頭練習、クイズ7	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		12週	映像で学ぶ英語圏文化 クイズ8	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
		13週	Unit 6 Listening Section および英語による口頭練習、クイズ9	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		14週	Unit 6 Reading Section および英語による口頭練習、クイズ10	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		15週	期末試験Q&A	これまでをふりかえることで弱点を見つけ、それを克服することで定期試験に備えることができる。
		16週	期末試験	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。
	3rdQ	1週	期末試験返却 後期授業概要説明	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
		2週	Unit 8 Listening Section および英語による口頭練習、クイズ11	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		3週	Unit85 Reading Section および英語による口頭練習、クイズ12	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		4週	映像で学ぶ英語圏文化 クイズ13	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
		5週	Unit 10 Listening Section および英語による口頭練習、クイズ14	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		6週	Unit 10 Reading Section および英語による口頭練習、クイズ15	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		7週	中間試験Q&A	これまでをふりかえることで弱点を見つけ、それを克服することで定期試験に備えることができる。
		8週	中間試験実施	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。
		9週	中間試験返却 映像で学ぶ英語圏文化	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
		10週	Unit 11 Listening Section および英語による口頭練習、クイズ16	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		11週	Unit 11 Reading Section および英語による口頭練習、クイズ17	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		12週	映像で学ぶ英語圏文化6 クイズ18	母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。
		13週	Unit 13 Listening Section および英語による口頭練習、クイズ19	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		14週	Unit 13 Reading Section および英語による口頭練習、クイズ20	平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略（ジェスチャー、アイコンタクト）を適切に用いることができる。
		15週	期末試験Q&A	これまでをふりかえることで弱点を見つけ、それを克服することで定期試験に備えることができる。
		16週	期末試験	これまでの学習で理解したことをきちんと成果として表現することができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	小テスト	合計
総合評価割合	50	0	0	0	0	50	100
基礎的能力	50	0	0	0	0	50	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	C o + w o r k II A	
科目基礎情報							
科目番号	0010		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科		対象学年		3		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	各チームの活動の内容に応じて適宜使用する。						
担当教員	全教員						
到達目標							
主体性や自己管理能力が身についている 他者を尊重しながらチームで作業ができる 情報を収集・整理して課題を発見し提案することができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	他人と予定を調整しながら自分のスケジュールを立てて動き、状況に応じて見直しをかけることができる		自分が立てたスケジュール通りに動くことができる		できない		
評価項目2	自分と意見の異なる人の意見を受け入れ、自分の意見も述べながら、チーム全体を合意形成に導くことができる		自分と意見の異なる人の話を聞いたうえで、適切に自分の意見を言うことができる		できない		
評価項目3	自主的に情報収集することができ、整理しまとめ、自分の意見を加えて他人に説明することができる		自分のアイディアを出すことができる		できない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (G)							
教育方法等							
概要	自立、協働、創造の能力を養成することを目的とし、他学科・他学年の学生と活動に取り組む。チームで取り組んだ活動についての報告会での報告や振り返り会を経て、活動計画の修正を行いながら、学習を進める。						
授業の進め方・方法	(1) 個人の取り組み 80% (自立 (40%) + 協働 (40%) + 創造 (20%)) (2) チームの取り組みと成果 20% (協働 (50%) + 創造 (50%)) 上記 (1) は、ルーブリックを用いた学生の自己評価、相互評価と教員の評価をもとに、チームの担当教員が評価を行う。(2) は中間報告会での複数の教員による評価とする。60点以上を合格とする。						
注意点	学科学年横断でのチームによって計画した活動の実施に基づく授業であるため、その取り組み課題を通じて自立・協働・創造にかかる力を身に付け、目標を達成するためには、積極的に関わる必要がある。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	全体授業ガイダンス、チームメンバーの発表、チームビルディング			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		2週	活動目標の決定および活動内容の計画			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		3週	活動目標の決定および活動内容の計画			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		4週	活動目標の決定および活動内容の計画			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		5週	活動目標の決定および活動内容の計画			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		6週	チーム活動			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		7週	チーム活動			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		8週	(中間試験 実施せず)			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
	2ndQ	9週	チーム活動			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		10週	チーム活動			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		11週	チーム活動			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		12週	チーム活動			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		13週	中間報告会			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		14週	振り返り会・これまでの活動のまとめ			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		15週	振り返り会・これまでの活動のまとめ			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
		16週	期末試験実施せず			自立・協働・創造の能力を身に着ける	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	個人の取り組み	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	80	20	0	0	0	0	100

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	C o + w o r k I I B	
科目基礎情報							
科目番号	0011		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科		対象学年		3		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	各チームの活動の内容に応じて適宜使用する。						
担当教員	全教員						
到達目標							
主体性や自己管理能力が身についている 他者を尊重しながらチームで作業ができる 情報を収集・整理して課題を発見し提案することができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	他人と予定を調整しながら自分のスケジュールを立てて動き、状況に応じて見直しをかけることができる		自分が立てたスケジュール通りに動くことができる		できない		
評価項目2	自分と意見の異なる人の意見を受け入れ、自分の意見も述べながら、チーム全体を合意形成に導くことができる		自分と意見の異なる人の話を聞いたうえで、適切に自分の意見を言うことができる		できない		
評価項目3	自主的に情報収集することができ、整理しまとめ、自分の意見を加えて他人に説明することができる		自分のアイディアを出すことができる		できない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (G)							
教育方法等							
概要	自立、協働、創造の能力を養成することを目的とし、他学科・他学年の学生と活動に取り組む。チームで取り組んだ活動についての報告会での報告や振り返り会を経て、活動計画の修正を行いながら、学習を進める。						
授業の進め方・方法	(1) 個人の取り組み 80% (自立 (40%) + 協働 (40%) + 創造 (20%)) (2) チームの取り組みと成果 20% (協働 (50%) + 創造 (50%)) 上記 (1) は、ルーブリックを用いた学生の自己評価、相互評価と教員の評価をもとに、チームの担当教員が評価を行う。(2) は中間報告会での複数の教員による評価とする。60点以上を合格とする。						
注意点	学科学年横断でのチームによって計画した活動の実施に基づく授業であるため、その取り組み課題を通じて自立・協働・創造にかかる力を身に付け、目標を達成するためには、積極的に関わる必要がある。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/4以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	活動目標の決定および活動内容の計画		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		2週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		3週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		4週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		5週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		6週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		7週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		8週	(中間試験 実施せず)		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
	4thQ	9週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		10週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		11週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		12週	チーム活動		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		13週	最終報告会		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		14週	振り返り会・これまでの活動のまとめ		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		15週	振り返り会・これまでの活動のまとめ		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
		16週	期末試験実施せず		自立・協働・創造の能力を身に着ける		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	個人の取り組み	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	20	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	80	20	0	0	0	0	100

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	海外研修 I	
科目基礎情報							
科目番号	0012			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	1		
教科書/教材	なし						
担当教員	E 全						
到達目標							
本研修では以下のことができるようになることを目標とする。 (1) 海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考えることができる。 (2) 海外における各種の研修体験を通じて、コミュニケーションをとることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考えることができる。		海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考えることができる。		海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考えることができない。	
評価項目2		海外における各種の研修体験を通じて、コミュニケーションをとることができる。		海外における各種の研修体験を通じて、コミュニケーションをとることができる。		海外における各種の研修体験を通じて、コミュニケーションをとることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E)							
教育方法等							
概要		海外における各種の研修体験を通じて、多面的に物事を考える能力やコミュニケーション能力を身に付けることが本科目のねらいである。研修期間は、夏季休業期間などとしてもよい。研修日数は、5日間以上とする。					
授業の進め方・方法		実地研修および報告会					
注意点		学級担任又は指導教員と緊密に連絡を取り合うこと。研修期間中は、積極的に現地の人たちと関わり、コミュニケーションをとるように努めるとともに、服装・言葉遣い等、研修生として相応しい態度で取り組むこと。合格の対象としない欠席条件(割合) 条件なし					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週	期末試験実施せず				
後期	3rdQ	1週					
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	4thQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週	期末試験実施せず				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	電気磁気学 I	
科目基礎情報							
科目番号	0013			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	小塚洋司著、新装版「電気磁気学」その物理像と詳論、森北出版						
担当教員	梶村 好宏						
到達目標							
評価項目1	静電界における電荷、電界、電位等を説明でき、それらを計算できる。						
評価項目2	電流による磁界を説明でき、各種法則を用いて磁界の計算ができる。						
評価項目3	導体、誘電体、磁性体を説明できる。						
評価項目4	静電容量及びインダクタンスを説明でき、それらを計算できる。						
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	静電界における電荷、電界、電位等を説明でき、それらの応用計算ができる。			静電界における電荷、電界、電位等を説明でき、それらを計算できる。		静電界における電荷、電界、電位等を説明でき、それらを計算できない。	
評価項目2	電流による磁界を説明でき、各種法則を用いて磁界の応用計算ができる。			電流による磁界を説明でき、各種法則を用いて磁界の計算ができる。		電流による磁界を説明でき、各種法則を用いて磁界の計算ができない。	
評価項目3	導体、誘電体、磁性体を説明でき、計算ができる。			導体、誘電体、磁性体を説明できる。		導体、誘電体、磁性体を説明できない。	
評価項目4	静電容量及びインダクタンスを説明でき、それらの応用計算ができる。			静電容量及びインダクタンスを説明でき、それらを計算できる。		静電容量及びインダクタンスを説明でき、それらを計算できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	電気回路IIと並んで非常に重要で、電気電子分野の基礎である電気磁気学のうち静電気学に関する部分を学ぶ。予習復習のための課題が課せられる。						
授業の進め方・方法	定期試験(70%)、授業中の演習問題プリント(10%)、レポート課題(20%)を総合して評価する。総合60%以上達成したものを合格とする。						
注意点	本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習及び課題レポート作成に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。毎回出される課題は期限までに必ず提出すること。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	電荷、クーロンの法則、電界			電荷、クーロンの法則、電界を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		2週	電気力線、電位			電気力線、電位を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		3週	ガウスの定理の積分形および微分形			ガウスの定理の積分形および微分形を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		4週	ラプラス及びポアソンの方程式			ラプラス及びポアソンの方程式を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		5週	電気双極子と電気二重層			電気双極子と電気二重層を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		6週	復習				
		7週	復習				
	8週	中間試験					
	4thQ	9週	誘電体と分極			誘電体と分極を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		10週	電束と誘電体の境界条件			電束と誘電体の境界条件を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		11週	静電エネルギー			静電エネルギーを説明でき、各種物理量が計算できる。	
		12週	仮想変位の考え方			仮想変位の考え方を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		13週	電気映像法			電気映像法を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		14週	電流			電流を説明でき、各種物理量が計算できる。	
		15週	復習				
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	0	30	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	0	0	0	0	30	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	電子工学		
科目基礎情報								
科目番号	0014			科目区分	専門 / 必修			
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電気情報工学科			対象学年	3			
開設期	前期			週時間数	2			
教科書/教材	吉田重知:「電子工学増補版」,朝倉書店							
担当教員	砂原 米彦							
到達目標								
1)電子や原子等の基本的性質を理解し、金属からの電子の放出を説明できる。 2)静電界や静磁界中に置かれた電子の運動を説明でき、電子の位置・速度を計算できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	電子や原子等の基本的性質を説明でき、金属から放出する電子の量や速度の計算に用いることができる。			電子や原子等の基本的性質を理解し、金属からの電子の放出を説明できる。		電子や原子等の基本的性質を理解し、金属からの電子の放出を説明できない。		
評価項目2	静電磁界中に置かれた電子の運動を説明でき、電子の位置・速度を計算できる。			静電界や静磁界中に置かれた電子の運動を説明でき、電子の位置・速度を計算できる。		静電界や静磁界中に置かれた電子の運動を説明でき、電子の位置・速度を計算できない。		
評価項目3								
学科の到達目標項目との関係								
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)								
教育方法等								
概要	電子そのものの性質と,電子現象に関連した基本的な物理現象を理解し,それらに基づく種々の回路素子の原理,機構,製造法,応用等を学習する。							
授業の進め方・方法	教材にしたがって進め、中間・期末試験の前に模擬問題による演習時間を設け、学習した内容の復習を行う。							
注意点	講義はテキスト中心に進めるが,必要に応じてプリントを配布する。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課							
授業計画								
		週	授業内容		週ごとの到達目標			
前期	1stQ	1週	電子の性質		電子の電荷量や質量などの基本性質を説明できる。			
		2週	核外電子の配列とエネルギー準位		金属原子の核外電子の配列とエネルギー準位を説明できる。			
		3週	熱電子放出		金属からの熱電子放出を説明できる。			
		4週	光電子放出		金属からの光電子放出を説明できる。			
		5週	電界放出		金属からの電界放出を説明できる。			
		6週	トンネル効果		トンネル効果を説明できる。			
		7週	演習		1～6週での授業内容の模擬問題による演習を行う。			
		8週	中間試験					
	2ndQ	9週	電位分布と電界		平行平板電極内の電位と電界の計算ができる。			
		10週	静電界中の電子の運動		静電界中に置かれた電子の運動を説明し、電子の速度と位置の計算ができる。			
		11週	静磁界中の電子の運動		静磁界中に置かれた電子の運動を説明し、電子の速度と位置の計算ができる。			
		12週	静電磁界中の電子の運動		静電磁界中に置かれた電子の運動を説明し、電子の速度と位置の計算ができる。			
		13週	空間電荷による定常電流		平行平板電極の中に流れる定常電流の計算ができる。			
		14週	空間電荷による誘導電流		平行平板電極の中の電荷が動いた時の電極間に生じる誘導電流の計算ができる。			
		15週	演習		9～14週での授業内容の模擬問題による演習を行う。			
		16週	期末試験					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他		合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	100	0	0	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	電気電子工学概論	
科目基礎情報							
科目番号	0016			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	3		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	使用しない。参考として、磯村他, 電気電子工学概論 (朝倉書店) など。						
担当教員	廣田 敦志						
到達目標							
1) 電気電子回路の復習を行い理解を確実にする 2) 発電から電力消費までの概略を理解する 3) 電力変換回路の基礎を理解する							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	電気電子回路の復習を行い理解を十分に確実にすることができる			電気電子回路の復習を行い理解を確実にすることができる		電気電子回路の復習を行い理解を確実にすることができない	
評価項目2	発電から電力消費までの概略を十分に理解することができる			発電から電力消費までの概略を理解することができる		発電から電力消費までの概略を理解することができない	
評価項目3	電力変換回路の基礎を十分に理解することができる			電力変換回路の基礎を理解することができる		電力変換回路の基礎を理解することができない	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F)							
教育方法等							
概要	これまでの電気電子科目の復習と今後の専門科目に向けた導入を行う。必要に応じて関連分野の説明や紹介を行うことがある。						
授業の進め方・方法	講義を主とする						
注意点	予習復習など自主学習を行い提出物は必ず提出すること。追試等は取組みが顕著な者に行うことがある。本科目は、授業時間と、予習・復習及び課題作成に必要な標準的自己学習時間の総計が90時間に相当する学習内容である。合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	電界			電界について理解することができる	
		2週	磁界			磁界について理解することができる	
		3週	直流回路(1)			直流回路の基礎的演習問題を解くことができる	
		4週	直流回路(2)			直流回路の演習問題を解くことができる	
		5週	交流回路(1)			交流回路の基礎的演習問題を解くことができる	
		6週	交流回路(2)			交流回路の演習問題を解くことができる	
		7週	共振回路			共振現象について理解することができる	
	8週	中間試験					
	2ndQ	9週	半導体素子(1)			半導体素子の種類を理解することができる	
		10週	半導体素子(2)			半導体素子の基本的特性を理解することができる	
		11週	電子回路(1)			基礎的な電子回路の理解をすることができる	
		12週	電子回路(2)			基礎的な電子回路の動作を理解することができる	
		13週	電力変換回路(1)			基礎的な電力変換回路の理解をすることができる	
		14週	電力変換回路(2)			基礎的な電力変換回路の特性を理解することができる	
		15週	まとめ			学習したまとめと整理を行うことができる	
		16週	期末試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	取り組み	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	80	0	0	20	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	情報工学概論	
科目基礎情報							
科目番号	0017		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科		対象学年		3		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	適宜、プリントを配布する。情報処理試験問題も参考にする。						
担当教員	佐村 敏治						
到達目標							
1)情報通信ネットワークのプロトコルの階層かの概念を理解し、基礎的かつ標準的な技術について理解し、実践できる。 2)データモデルの基本的な概念を説明でき、データベース言語 (SQL) を用いて基本的なデータ問い合わせを行うことができる。 3)工学的活動と日常的活動において遭遇する情報化社会特有の脅威と、それに対する対策を理解している。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	情報通信ネットワークのプロトコルの階層かの概念を十分理解し、基礎的かつ標準的な技術について実践できる。		情報通信ネットワークのプロトコルの階層かの概念を理解し、基礎的かつ標準的な技術について理解できる。		情報通信ネットワークのプロトコルの階層かの概念を理解できず、基礎的かつ標準的な技術について理解できない。		
評価項目2	データモデルの基本的な概念を十分に説明でき、データベース言語 (SQL) を用いて基本的なデータ問い合わせを十分に行うことができる。		データモデルの基本的な概念を説明でき、データベース言語 (SQL) を用いて基本的なデータ問い合わせを行うことができる。		データモデルの基本的な概念を説明できず、データベース言語 (SQL) を用いて基本的なデータ問い合わせを行うことができない。		
評価項目3	情報化社会特有の脅威と、それに対する対策を十分に理解している。		情報化社会特有の脅威と、それに対する対策を理解している。		情報化社会特有の脅威と、それに対する対策を理解していない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (A) 学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F)							
教育方法等							
概要	様々な情報工学の分野においてネットワーク、データベース、情報セキュリティのテーマについて講義する。情報工学の考え方を学習し、情報処理試験にも対応させる。4年次コース分けにも活用すること。						
授業の進め方・方法	講義形式で行う。演習問題を出して理解を深める。						
注意点	以後の情報系科目の基礎となるため、積極的に取り組むこと。本科目は、授業で保証する学習時間と、予習・復習に必要な標準的な自己学習時間の総計が、90時間に相当する学習内容である。授業態度に問題のある学生は減点を行うこともある。 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業ガイダンス、OSI基本参照モデル		OSI基本参照モデルについて説明できる		
		2週	TCP/IP、ネットワークインタフェース層、MACアドレス		TCP/IPについて説明できる。I ネットMACアドレスについて与えた問題を解くことができる。		
		3週	インターネット層、IPアドレス (1)		IPアドレスについて与えられた問題を解くことができる。自分でIPアドレスを設定できる。		
		4週	IPアドレス (2)、IPv6		IPアドレスについて与えられた問題を解くことができる。自分でIPアドレスを設定できる。IPv6についての機能を説明できる。		
		5週	トランスポート層、TCP/UDP		TCP/UDPの特徴を説明できる。		
		6週	アプリケーション層		与えられたアプリケーションの仕組みを説明できる。		
		7週	LAN		LANについて説明できる。		
		8週	中間試験		1週から7週までの内容を理解できる。		
	4thQ	9週	中間試験の解答、データベース序論、関係データベース		データベースの基礎および関係データベースについて説明できる。		
		10週	SQL(1)		SQLについて与えられた問題を解くことができる。		
		11週	SQL(2)		SQLについて与えられた問題を解くことができる。		
		12週	SQL(3)		SQLについて与えられた問題を解くことができる。		
		13週	情報セキュリティ (脅威と対策)		情報セキュリティについて脅威と対策を説明できる。		
		14週	情報セキュリティ (暗号、ハッシュ関数、さまざまな認証技術)		暗号、ハッシュ関数、さまざまな認証技術を説明できる		
		15週	情報セキュリティ (さまざまな認証技術)、まとめ		様々な認証技術を挙げて仕組みを説明できる。		
		16週	期末試験		第8週から15週までの内容を理解できる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	小テスト	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	10	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	90	10	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	デジタル電子回路	
科目基礎情報							
科目番号	0018			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	電気情報工学科			対象学年	3		
開設期	通年			週時間数	2		
教科書/教材	堀桂太郎:「図解論理回路入門」,森北出版						
担当教員	磯川 悌次郎,松井 伸之						
到達目標							
(1) 論理回路の基礎事項を理解できる. (2) 組合わせ回路を理解できる. (3) 順序回路を理解できる. (4) パルス回路を理解できる.							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	論理回路の基礎事項を十分に理解できる.			論理回路の基礎事項を理解できる.		論理回路の基礎事項を理解できない.	
評価項目2	組合わせ回路を十分に理解できる.			組合わせ回路を理解できる.		組合わせ回路を理解できない.	
評価項目3	順序回路を十分に理解できる.			順序回路を理解できる.		順序回路を理解できない.	
評価項目4	パルス回路を十分に理解できる.			パルス回路を理解できる.		パルス回路を理解できない.	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (D) 学習・教育目標 (F) 学習・教育目標 (H)							
教育方法等							
概要	ブール代数を基礎として,演算回路,フリップフロップ回路,カウンタ回路などの基本構成と動作原理を理解することをねらいとする.また,自ら適切な回路が設計できるように演習を行う.						
授業の進め方・方法	教科書に沿った解説を中心に進める. 必要に応じて, 演習問題や設計課題に取り組んでもらう.						
注意点	自分でも回路設計ができるように能動的な姿勢で学習すること.可能ならば,設計した回路を製作して動作を検討するとよい. 合格の対象としない欠席条件(割合) 1/3以上の欠課						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	2進数と基数変換			2進数と基数変換について説明できる.	
		2週	論理演算			論理演算について説明できる.	
		3週	ベン図とブール代数の基礎			ベン図とブール代数の基礎について説明できる.	
		4週	論理式とカルノー図			論理式とカルノー図について説明できる.	
		5週	カルノー図の演習			カルノー図を用いた論理式の簡単化ができる.	
		6週	クワイン・マクラスキー法			クワイン・マクラスキー法について説明できる.	
		7週	論理回路設計の基礎			論理回路設計の基礎について説明できる.	
		8週	中間試験				
	2ndQ	9週	ゲート回路の基礎			ゲート回路の基礎について説明できる.	
		10週	デジタルICの基礎			デジタルICの基礎について説明できる.	
		11週	組合わせ回路1(加算回路の設計方法など)			組合わせ回路(加算回路の設計方法など)について説明できる.	
		12週	組合わせ回路2(データ変換回路の設計方法など)			組合わせ回路(データ変換回路の設計方法など)について説明できる.	
		13週	組合わせ回路3(データ選択回路の設計方法など)			組合わせ回路(データ選択回路の設計方法など)について説明できる.	
		14週	フリップフロップ1(FFの基本,RS-FFの動作原理や特性方程式など)			フリップフロップ(FFの基本,RS-FFの動作原理や特性方程式など)について説明できる.	
		15週	フリップフロップ2(JK-FF,D-FFの動作原理や特性方程式など)			フリップフロップ(JK-FF,D-FFの動作原理や特性方程式など)について説明できる.	
		16週	期末試験				
後期	3rdQ	1週	フリップフロップ3(T-FFの動作原理や特性方程式, FFの機能変換など)			フリップフロップ(T-FFの動作原理や特性方程式, FFの機能変換など)について説明できる.	
		2週	非同期式カウンタ1(非同期式n進カウンタの基礎など)			非同期式カウンタ(非同期式n進カウンタの基礎など)について説明できる.	
		3週	非同期式カウンタ2(非同期式n進カウンタの設計法,非同期式カウンタの短所など)			非同期式カウンタ(非同期式n進カウンタの設計法,非同期式カウンタの短所など)について説明できる.	
		4週	同期式カウンタ1(同期式n進カウンタの励起表による設計法など)			同期式カウンタ(同期式n進カウンタの励起表による設計法など)について説明できる.	
		5週	同期式カウンタ2(シフトレジスタやリングカウンタの設計法など)			同期式カウンタ(シフトレジスタやリングカウンタの設計法など)について説明できる.	
		6週	順序回路1(ミレー型回路とムーア型回路など)			順序回路(ミレー型回路とムーア型回路など)について説明できる.	
		7週	順序回路2(状態遷移表によるカウンタの設計法など)			順序回路(状態遷移表によるカウンタの設計法など)について説明できる.	
		8週	中間試験				
	4thQ	9週	順序回路3(自動販売機の設計法など)			順序回路(自動販売機の設計法など)について説明できる.	

	10週	パルス回路1(微分回路, 積分回路など)	パルス回路(微分回路, 積分回路など)について説明できる.
	11週	パルス回路2(マルチバイブレータ, シュミットトリガ回路など)	パルス回路(マルチバイブレータ, シュミットトリガ回路など)について説明できる.
	12週	パルス回路3(波形整形回路など)	パルス回路(波形整形回路など)について説明できる.
	13週	D-Aコンバータ回路の概要	D-Aコンバータ回路の概要について説明できる.
	14週	A-Dコンバータ回路の概要	A-Dコンバータ回路の概要について説明できる.
	15週	プログラマブルロジックデバイスの概要	プログラマブルロジックデバイスの概要について説明できる.
	16週	期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標				到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100	
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0	
専門的能力	100	0	0	0	0	0	100	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	

明石工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	電気情報工学実験Ⅱ	
科目基礎情報							
科目番号	0019		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	実験		単位の種別と単位数		履修単位: 4		
開設学科	電気情報工学科		対象学年		3		
開設期	通年		週時間数		4		
教科書/教材	必要資料をプリントにて配布・紹介する。						
担当教員	大向 雅人,周山 大慶,細川 篤,廣田 敦志,砂原 米彦						
到達目標							
実際のものを用いて実験を行い、得られた結果を整理、分析することにより、工学的観点から理解できるようになる。また、レポートを作成することにより、実験結果とその分析結果について報告できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	実験を効率よく的確に実施することができる。		実験を実施することができる。		実験を実施することができない。		
評価項目2	実験結果を適切に整理し、深く分析することができる。		実験結果を整理分析することができる。		実験結果を整理分析することができない。		
評価項目3	実験について書面で詳細に報告することができる。		実験について書面で報告することができる。		実験について書面で報告することができない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育目標 (B) 学習・教育目標 (E) 学習・教育目標 (G)							
教育方法等							
概要	実験を通し電気情報工学実験への理解を深めるとともに能動的に学習する能力を身につける。器具の正しい使用法や、実験室の整理整頓を行う習慣を身につける。前期は周山、細川、砂原、後期は大向、砂原、廣田が担当する。						
授業の進め方・方法	4、5名の班に分かれて、それぞれの班が各テーマの実験を行い、得られたデータを整理して分析する。また、レポートを作成し個別指導を受ける。						
注意点	期限内に報告書が受取り完了されないと合格とならない。実験室の清掃と器具の片付けまできちんと行うこと。実験についての諸注意は前期・後期の最初の授業（第1週・第16週）に指示する。未提出レポートがあると合格点はつかない。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実験のガイダンス		前期の実験に関し、概要と注意事項を身に着ける。		
		2週	ロジックトレーナI		ロジックトレーナを用いて、基本的な論理回路の動作を確認することができる。		
		3週	レポート整理		実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。		
		4週	熱電対		熱起電力を実験で測定できるようになる。		
		5週	レポート整理		実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。		
		6週	ベクトル軌跡		電気回路のベクトル軌跡を描くことができるようになる。		
		7週	レポート整理		実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。		
		8週	Linuxのインストール		Linuxのインストールおよび設定ができるようになる。		
	2ndQ	9週	直列共振		R L C直列回路の各素子の電圧を測定し、共振現象を実験的に調べることができる。		
		10週	レポート整理		実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。		
		11週	ディジタルオシロスコープと波形処理		ディジタルオシロスコープによる波形観測およびフーリエ級数展開の計算を行うことができるようになる。		
		12週	レポート整理		実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。		
		13週	フォトトランジスタ				
		14週	レポート整理		実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。		
		15週	実験のまとめと整理		前期のすべてのレポートをまとめて提出することができる。		
		16週	期末試験実施せず		なし		
後期	3rdQ	1週	実験のガイダンス		後期の実験に関し、概要と注意事項を身に着ける。		
		2週	FETの静特性		F E Tの入力特性を出力特性を測定できるようになる。		
		3週	FETの動特性		F E T増幅回路の入出力特性と周波数特性を測定できるようになる。		
		4週	レポート整理		実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。		
		5週	自然エネルギー発電の特性		自然エネルギー発電の電流電圧特性と出力特性を実験的に調べることができる。		
		6週	レポート整理		実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。		
		7週	直流電動機の無負荷試験		直流電動機の無負荷特性を実験で調べることができる。		

		8週	レポート整理	実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。
	4thQ	9週	直流発電機の負荷試験	直流発電機の負荷特性を調べられる。
		10週	レポート整理	実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。
		11週	変圧器の特性試験	変圧器の特性を試験できるようになる。
		12週	レポート整理	実験データに基づき、レポートを作成できるようになる。
		13週	ソーティングアルゴリズムの効率(1)	ソーティングアルゴリズムの効率を調べることができるようになる。
		14週	ソーティングアルゴリズムの効率(2)	ソーティングアルゴリズムの効率を調べることができるようになる。
		15週	実験のまとめと整理	すべてのレポートをまとめて提出することができる。
		16週	期末試験実施せず	なし

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	試験	報告書	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	80	0	20	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	80	0	20	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0